

地域再生計画

- 1 地域再生計画の名称
神話とたたら製鉄の郷 奥出雲の仕事づくり ～伝統産業の再生事業～
- 2 地域再生計画の作成主体の名称
島根県仁多郡奥出雲町
- 3 地域再生計画の区域
島根県仁多郡奥出雲町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

奥出雲町は、世界で唯一、古来から連綿と受け継がれてきた「たたら製鉄」の技術と精神が残された町である。

「たたら製鉄」とは、砂鉄と木炭を粘土で築かれた炉で燃焼させ、自然素材から和鉄（玉鋼）を作り出す製鉄法で、約 1400 年以上の歴史がある。

また、優れた鋼が生産されたことから、良質な刃物が作り出され、伝統的工芸品である算盤産業が発達し、昭和 50 年代まで町の中心産業として栄えてきた。

しかし、人口減少、過疎化、高齢化が進む中山間地域の奥出雲町において、日本刀、そろばん、刃物等の伝統産業衰退の課題は深刻である。原材料は、「たたら操業」で言えば、鉄、木炭、砂鉄といった自然素材であり、貴重な有限の資源であり、活用・使用できるようになるまでには相応の時間が必要であり、そこから創り出された「玉鋼」についても、現在、刀匠以外の流通経路がない。そのように原材料生産と流通の確立が不十分であり、ますます産業活動の縮小が進んでいる。

また、たたら操業をはじめとして、日本刀、刃物、そこから派生するそろばんなど、師弟関係で受け継がれる職人の技であるため、手間と時間がかかり、多岐にわたる複雑な工程があり、取得するのに長い年月を要する。それにより、従事者数の減少、従事者の高齢化が加速度的に進み、それが産業を縮小させ、後継者を受け入れる体制が整わないのが現状である。

さらには、利便性や機能性が重視される日常生活において、伝統工芸品等を使用、活用、メンテナンスする方法等の情報・理解が不足しており、「本物の良さ」を知り、感じる機会の減退により、全体需要が低下している。

そこで、これまで刀匠以外への流通経路が無い玉鋼を柔軟に活用し、現代の技術者あるいはデザイナーの力によって魅力的な商品を開発し、奥出雲の

新たなブランド『たたらブランド』を確立し、安定的な原材料提供を行う仕組みを構築する。また、国選定保存技術となっているたたら操業の継承、日本刀の鍛錬の技を受け継ぐ刀匠の育成を行うとともに、「たたら」のDNAを受け継いだ新たな産業、新しい価値をもった商品の開発を推進し、関連するそろばんなどの伝統産業も含め、雇用の拡大を図る。さらには、そこで生まれた商品や価値、人などが吸引力となり、「本物の良さ」を求めるファンが町内で「本物」を体験、体感できる資源開発を進める。

4-2 地方創生として目指す将来像

たたら製鉄は、砂鉄と木炭により和鉄（玉鋼）を生産する日本古来の製鉄法である。生産性の高い洋式製鉄法の普及により、一旦その火は消えたが、日本刀の原料となる玉鋼は、現代の科学技術を持ってしても作り出すことができないことから、昭和52年に日本美術刀剣保存協会が操業する「日刀保たたら」として復活し、今でも世界で唯一、奥出雲町内でのみ連綿と受け継がれ年3回の「たたら操業」が行われている。

また、たたら製鉄の隆盛に連動して、鍛冶技術が発達し、そこで作られる鋼材を利用した質の高い刃物が作り出され、冬場の屋内の仕事として算盤産業が派生し、現代では兵庫県播州との2代産地「雲州算盤」の町として栄えた。また、隣接する安来市は奥出雲地方で作り出された鋼材の出荷港として栄え、現代ではヤスキハガネや特殊鋼材産業の町として発展し、たたら製鉄は他のものづくり産業の発展に大きく寄与してきた。

たたら製鉄は今では、国内の刀匠へ日本刀制作の原料供給を目的として年3回の操業が行われるのみであるが、近代産業が発展するまでの伝統的産業等の物づくりの礎として、また、日本の風土を磨き上げた技と精神、文化であり、世界に誇る日本のものづくりの原点である。その日本を支えた産業の技術、歴史、そして、精神を次の世代に紡いでいくことは本町の責務です。

今後は、日本のものづくりの原点を次世代に承継するためには、「たたら」を中心とした地域に眠る資源に関心を持つ層を増やし、関わりたいと願う交流人口の拡大を図るとともに、技術の継承のための担い手づくり、この技術を活かした新しい産業の創出による新たな創り手づくり、新たな価値づくりを進めていく必要がある。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年度 増加分 (1 年目)	平成 30 年度 増加分 (2 年目)	平成 31 年度 増加分 (3 年目)
刀匠、デザイナー、そろばん、木工及び刃物産業新規就業者(人)	0	2	2	2
『たたらブランド』認証製品の商品化点数(点)	0	5	5	5
『たたらブランド』認証製品の製造販売事業者数(社)	0	3	3	3

	K P I 増加 分の累計
刀匠、デザイナー、そろばん、木工及び刃物産業新規就業者(人)	6
『たたらブランド』認証製品の商品化点数(点)	15
『たたらブランド』認証製品の製造販売事業者数(社)	9

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

和鉄を活用した『奥出雲たたらブランド』を推進するため、学識経験者及び技術者を交えた「ブランド推進会議」を設置し、関連製品等の認証制度を確立する。

さらに、伝統的な日本刀を生み出す刀匠や新たな「たたらブランド」を確立するデザイナー等の誘致・育成を図るとともに、2020年東京オリンピックに向けた製品開発により認知度向上を図る。

また、たたら製鉄に関連する雲州算盤産業の再生を図るため、珠の産地内生産体制の確立、リハビリテーション器具あるいはアート装飾品の商品化に向けた調査研究を行い、新たな販路を開拓する。

一方で、たたら製鉄資源を広くPRする周遊観光ルートの開発に併せ、再生可能産業であった「たたら製鉄」により形成された棚田景観の保全などその価値を更に高めていくために「世界農業遺産」登録を目指す。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

①事業主体

奥出雲町

②事業の名称

神話とたたら製鉄の郷 奥出雲の仕事づくり ～伝統産業の再生事業～

③事業の内容

1. 和鉄を活用した『奥出雲たたらブランド』の確立

- ・たたらブランドの認証及び、認証された製品を活用して事業を行うための、事業推進組織の設立、運営

たたら製鉄に関する学識経験者及び関係者を集まった推進会議を設置し、ブランド推進に関わる憲章や仕組みについて議論を行った上で、更なる調査研究並びに関係する機関（刀匠、デザイナー等）への働きかけを行う。

- ・和鉄を使用して製作を行う刀匠、デザイナー等の誘致及び環境整備
前身事業において、刀匠及びデザイナー等と連携した試作品開発を行い、約20点を超す試作品が完成した。また、活動を通じて刀匠及びデザイナー等の関係性も深まり、当地域での作家活動を志す者も生まれたことから、具体的に誘致を進めるとともに製作活動の環境整備を行う。

- ・たたらブランド製品の販売促進やたたらに関連したグッズ等製品開発のための調査研究等

試作した作品を元に、より具体的な商品としての調査研究を行う。

- ・たたらや和鉄の魅力のPR、刀匠、デザイナー等への情報発信、オリンピック記念品への採用に向けた広報活動、製作技術の研究等

たたら製鉄に関する展示会を首都圏において開催し、多数の来訪者を得ることができたことから、引き続き広報活動に取り組むとともに、刀匠、デザイナー等へさらに情報を発信し、誘致につなげる。また、日本のモノづくりの原点としての産業を世界に広めるため、オリンピック記念品への採用活動に取り組む。

2. たたら製鉄に関連する伝統産業の再生支援

- ・たたらに起因する算盤産業再生のための、新商品の販路開拓、生産性の向上等への支援

縮小するそろばん塾市場から、新たな市場を開拓するにあたり、リハビリテーション機能をもたせた製品を試作品し、国内最大級のデザイン展

でグランプリ賞を受賞した。このことにより、計算器具からリハビリ器具への登用やアートや身近に感じられる装飾品としての価値を高めるための調査研究を行う。

また、これまで地域内生産できていない算盤珠の製造技術を誘致し、地域内での完全生産体制の確立を目指す。

3. たたら観光振興

・地域資源を活用した周遊観光拠点の整備と観光ルートの開発

地域に眠る「たたら製鉄」の資源（史跡、景観、食）を再発掘し、各所にある観光拠点をルート化し商品化するための調査研究を行う。

④事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

たたらブランド認証手数料収入による補助金の遡減を図るとともに、刀匠、デザイナー、算盤産業においては開発支援 3 年以後、それぞれの業界において自立経営により進めるものとする。

【官民協働】

たたらブランド製品については、試作から行う必要があるため、資金、人員、技術力で脆弱な個人事業主が多い当町においては、事業の初期段階においての官民協働が不可欠である。

開発支援 3 年以後は、刀匠、デザイナー、製造業界において金融機関からの資金提供や民間事業者による自主経営により進めるものとする。

【政策連携】

本町で操業を続ける日刀保たたらは文化財保護法に規定する「国選定保存技術」であり、また、観光に活用する資源も文化的、歴史的背景の深いものであることから、文化財保護、選定技術の継承、伝統文化の保持など雇用機会の創出に併せ「たたらブランド」製品の生産拡大により、刀匠、デザイナー等の多様な人材の確保育成を進める。

【地域間連携】

特になし

【その他の先導性】

特になし

⑤重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年度 増加分 (1 年目)	平成 30 年度 増加分 (2 年目)	平成 31 年度 増加分 (3 年目)
刀匠、デザイナー、そろばん、木工及び刃物産業新規就業者(人)	0	2	2	2
『たたらブランド』認証製品の商品化点数(点)	0	5	5	5
『たたらブランド』認証製品の製造販売事業者数(社)	0	3	3	3

	KPI 増加 分の累計
刀匠、デザイナー、そろばん、木工及び刃物産業新規就業者(人)	6
『たたらブランド』認証製品の商品化点数(点)	15
『たたらブランド』認証製品の製造販売事業者数(社)	9

⑥評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

第 3 者委員会の設置により、事業終了後、観光入り込み数、たたらブランド商品の製造販売事業者数、製造業の従事者数により検証を行う。

指標値と実際の達成値がかけ離れている場合は、その原因を調査するとともに、適正な指標値を検討する。

【外部組織の参画者】

子育て世代の代表者・住民の代表者、UIターン代表者、奥出雲町商工会(産)、島根県中山間地域研究センター(官)、ハローワーク雲南(官)、県立横田高校(学)、山陰合同銀行(金)

【検証結果の公表の方法】

委員会の公開、町広報紙、町HP

⑦交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 59,000 千円

⑧事業実施期間

地域再生計画認定の日から、平成32年3月31日（3ヵ年度）

⑨その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

① 世界農業遺産推進事業

実施概要：再生可能産業であった「たたら製鉄」により形成された循環型農業の実践及び棚田景観の保全など、現在まで受け継ぐ町として、その価値を世界に認めていただくために、世界農業遺産の登録を目指す組織を立ち上げ、推進していく。

実施主体：奥出雲町

実施期間：平成28年度から

6 計画期間

地域再生計画認定の日から、平成32年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

第3者委員会の設置により、事業終了後、観光入り込み数、たたらブランド商品の製造販売事業者数、製造業の従事者数により検証を行う。

指標値と実際の達成値がかけ離れている場合は、その原因を調査するとともに、適正な指標値を検討する。

【外部組織の参画者】

子育て世代の代表者・住民の代表者、UIターン代表者、奥出雲町商工会(産)、島根県中山間地域研究センター(官)、ハローワーク雲南(官)、県立横田高校(学)、山陰合同銀行(金)

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成 29 年度 増加分 (1 年目)	平成 30 年度 増加分 (2 年目)	平成 31 年度 増加分 (3 年目)
刀匠、デザイナー、そろばん、木工及び刃物産業新規就業者(人)	0	2	2	2
『たたらブランド』認証製品の商品化点数(点)	0	5	5	5
『たたらブランド』認証製品の製造販売事業者数(社)	0	3	3	3

	K P I 増加 分の累計
刀匠、デザイナー、そろばん、木工及び刃物産業新規就業者(人)	6
『たたらブランド』認証製品の商品化点数(点)	15
『たたらブランド』認証製品の製造販売事業者数(社)	9

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法 委員会の公開、町広報紙、町HPで公開する。